

## かほく市 健康づくりを核とした地域づくり

行政 × 企業 × 大学 × NPO のパートナーシップによるソーシャルビジネスモデル

事務局

坂本 和馬

かほく市は、山と海に囲まれた自然豊かな土地で、日本哲学の祖「西田幾多郎」の生まれ育ったまちです。

クラブパレットは、2002年に誕生し、「すべての人と笑顔あふれる未来をつくります」の理念のもと、100年続くクラブを目指し、フリー・フラット・オープンな活動をしてきました。

NPO法人クラブパレットのクラブ理念「すべての人と笑顔あふれる未来をつくります」の意味・成果等が、第6分科会に参加して理解することができました。クラブハウスのにぎわいや雰囲気がすばらしく、施設面がすばらしいのはもちろんのこと、ソフト面（スタッフ・企画等）もすばらしかったです。特に、クラブハウスが宇気野中学校に併設されている社会体育館の1階になっており、昼間は体育館等の施設を中学生が使用し、夜間は地域住民（利用者）が使用することにより、施設の稼働率を高くする工夫がされていました。クラブハウス周辺には人があふれ、「クラブパレット」がこの地域に欠かせない場所になっているのだと感じました。

一日目のワークショップ「健康なまちづくり × ソーシャルビジネスモデル」では、「悩みごと」「使える資源」「強み」を個人で考え、その後、個人の考えを持ち寄り、プログラムを作成しました。私のグループは、「普段参加しない人を参加させる方法」を話し合い、「祖父と孫」「父と子」等を対象にしたプログラムの充実が必要



とのまとめに至りました。

講師の話で、「Plan(頭)」→「Do(体)」→「Check(頭)」→「Action(体)」のPDCAサイクルの中で、PとCの頭で考え話をするだけの人はたくさんいるが、DとAの体で実践している人は少ないとの話がありました。私自身の行動を顧みて、頭と体の両方を使って今後も行動していこうと改めて思いました。

ワークショップ終了後のノルディックウォーキングでは、海なし県の間人は、海を見るとテンションが上がるといじられますが、サンセットビーチでのウォーキングはテンションが上がり、気持ち良いものでした。

その後の夕食交流会、夜なべ談義では、全国から集まった地域づくり団体の方々と地域づくりや他愛のない話しなどで、楽しい時間を過ごしました。

2日間を通して、かほく市の皆様やNPO法人クラブパレットの皆様から熱烈な歓迎、おもてなしを受けて、楽しく全国研修交流会に参加することができたことに感謝したいです。

## 金沢市 地域をつながりを作る IT アイデアワーク

IT 活用で地域の隠れた資産をあぶり出す

前橋永明地区地域づくり協議会 深谷 茂さん

平成27年8月29日（土）、30日（日）に石川県内各地で開催された標記大会に参加し、学習と交流の機会を頂いたことは貴重な財産になりました。

本大会には全国から約260名の参加者があり、11の分科会が石川県内各地で開催され、それぞれのテーマのもと協議・研修しました。翌日七尾市の「能登演劇堂」で開催された全体会の席上で研修成果を発表し、参加者全体の共通認識を得て研修成果を共有しあえたことは幸いでした。

全体会の開会式には、谷本石川県知事、原田総務省大臣官房審議官が来場され、それぞれ祝辞を述べられました。特に、谷本知事が行事遂行は段取り（準備）8分と言うところから、能登を舞台に展開されている朝ドラ「まれ」の放映決定までの知事ご自身の誘致外交活動のご苦勞の様子解説が印象的でした。結果実現し、石川県民は北陸新幹線開業との展開で大歓迎とのことでした。

私は、第7分科会に参加し、広く深く学ぶ機会を得ました。

当分科会のテーマは「地域をつながりを作る IT アイデアワーク」、副題で「IT 活用で地域の隠れた資産をあぶり出す」を掲げ、金沢市の部長の挨拶に次いで自己紹介をし、続いて基調講演を聴いたあと30人のメンバーを6グループに分け、「女性支援」、「防災」、「福祉（見守り）」、「観光」、「雇用」、「結婚」、をテ

マにしてワークショップ作業で相互に意見を出し合い、それぞれの成果を求めました。

翌日の午前中を使い、昨日の課題について「IT による対策、対応策もアイデアを出すことが大切」をベースに協議し、その結果を午後の全体会に報告し、11の分科会の成果を共有し今後の活動に資することとしました。分科会発表後ひな壇トークで自由な意見交換の場があり、参加者も会場から提言出来ました。

地域課題の解決に際しては、それぞれの課題に対する「アイデアソン」に加えて「ハッカソン」まで到達することが出来れば大きな成果が期待できるとの方向づけでした。

地域課題にはいろいろありますが、身近な課題から IT 化していくことが解決に寄与する近道だとの説明でした。例えば、ゴミの分別や日程表などは住民誰にも必要なものなので具体化しやすい。しかし、高齢社会の中で IT に縁の薄い方々も大勢いるので、紙ベースも避けて通れない現実も理解しておくことを忘れてはいけません。これが現実の地域社会です。現在の社会構造の中では IT 万能ではないことも共通理解が必要だと学びました。

今回の研修で、地域づくりに IT を活用するには IT が威力を発揮できる環境作り、土壌づくりが必要、現状ではまだ不十分なので社会の構造を修正することも視野に入れることが求められるだろうと提言していました。